

第 1 回委員会 (R7.9.5) 主な意見

論 点	意 見 内 容
施設の必要性 ・役割	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの孤立を防ぎ安心できる居場所となっている点で大きな意義がある ・寮生活が大きな特徴。不登校やひきこもりの子が「このままではいけない」「自分を変えたい」「昼夜逆転の生活を改善したい」との思いを持って入学している実態がある ・施設・設備・臨床心理士等のスタッフの充実や、公用車による遠方での体験活動や動物の飼育は、都市部のフリースクールにはない特色 ・通信制高校や定時制高校の通学も難しい「完全不登校状態」の生徒などの受け皿になり得る ・生徒 1 人当たり約 400 万円を投じており、膨大な不登校・ひきこもりに対して受入れ生徒数はごく一部 ・山の学校は、設置当初の「やんちゃな青少年への支援」という役割は終えたのではとの意見もあり、今後の実施方針等について検討する時期に来ているのではないか
支援内容等の 見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・「やんちゃな青少年への支援」という設置当初の役割が変化していることを踏まえ、受入れ対象となる年齢の拡充（小学校・中学校等）も考えられる ・在籍期間の変更（延長）を検討すべき ・外部との交流を拡充すべき ・教科学習や高卒資格取得にニーズがあり、通信制高校との連携に更に注力すべき ・生活支援に特化すべきで教科学習や高卒資格取得等を行うべきでない
民間活力の 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・両施設とも過去に指定管理者の公募に向けたサウンディング調査を実施したが、事業者から前向きな反応がない。施設の目的や立地面（特に山の学校）から、手は挙がらないのでは ・経費の大半は人件費であるため、民間運営を進めた場合、主に人件費で経費削減のメリットが出ると思われるが、人件費を削減した場合優秀な資格職の確保が難しくなり、施設運営に支障を来す可能性があることには留意が必要
歳出削減・歳 入確保の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者数を増やしても収入増につながらないため、効果的な活用を目指すしかない
その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・県立施設であり安心でき、費用も安いのにネガティブなイメージ（消極的な選択肢）があり、プラスイメージ（積極的な選択肢）になるよう積極的に PR に努めるべき